

Title	第1回コンプライアンス促進研修（研究）会 「競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究」報告（2015年度 聖学院大学総合研究所 競争的資金獲得・コンプライアンス促進のための研究会 主催）
Author(s)	齊藤，伸
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.25No.1, 2015.9 :50-50
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5418
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2015年度 聖学院大学総合研究所 競争的資金獲得・コンプライアンス促進のための研究会 主催

第1回コンプライアンス促進研修（研究）会

「競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究」報告



会場風景

2015年7月8日、聖学院大学総合研究所主催で本学では初となる「競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究」が教授会室において開催された。参加者は非常勤講師を含む本学所属の研究者36名（講演者4名を含む）であった。会の冒頭に研究代表を務める清水正之学長より述べられた本研究会の目的は、競争的資金、とりわけ日本学術振興会による科学研究費補助金（以下、「科研費」と略記する）の獲得を通して本学におけるいっそうの学術研究の推進を図ること、そしてその際に等しく求められるようになるコンプライアンスへの共通理解を深めることである。その最初の試みであった本研究会の講演では主に次の二つの視点から各二名ずつ計四つの講演がなされた。すなわち、これまで科研費の採択審査を経験してきた「審査委員」からの視点と、現在もお継続的に科研費に採択されている「申請者」という二つの視点から、それぞれ科研費の審査方法、申請方法に関する学びの場がもたれた。前者の視点については清水正之学長と若松昭子政治経済学部教授が、後者の視点については大高研道政治経済学

部教授と相川章子人間福祉学部教授より講演がなされた。

まず、前者からの観点による清水学長の講演では、科研費の審査方法に関する実態や、実学ではない人文学が科研費に応募する際の工夫が講じられ、若松教授は「科学研究費助成事業データベース」を活用した適切な応募分野の選定の重要性を強調された。

後者からの観点では、大高教授は科研費の応募と自らのキャリアの変遷を紹介しながら、その時々での適切な研究領域・分野やキーワードの選択、そして申請書類を作成する上で実践されている工夫を紹介された。相川教授は今年度に採択された研究題目の申請書類と、かつて不採択となったものとの比較しながらより良い申請書類の作成について講演された。また相川教授はフィールドワークやアンケート調査を行う際の「人権の保護及び法令等の遵守」に関して、近年のいわゆる個人情報への要求に答えるためには、とりわけ周到な用意と丁寧な扱いが必要となる点を指摘された。それぞれの講演は極めて有意義にして示唆に富んでおり、報告者を含むすべての参加者にとって価値ある教示であった。

全ての講演終了後には、質疑応答の時間が設けられた。そこでは当初の終了予定時刻を大きく経過してもなお次々と質問の手が挙げられ、本学における競争的資金・公的資金（助成金）獲得のための申請に対する関心の高さがうかがわれた。本年度より学長となり、自ら先頭に立って若い研究者たちを引っ張っていかうとする清水学長（研究代表）の熱意がその発言からも感じられた。最後に、「今後も全学的にこうした競争的資金の獲得方法に関する学びの場をもつことが望ましい」と述べられ、初めての研究会（勉強会）は盛会に終わった。

（文責：齊藤 伸 [さいとう・しん] 聖学院大学基礎総合教育部ポストドクター／聖学院大学総合研究所NewsLetter編集部）